

2019 年度

農検 3 級

日本農業検定 3 級試験問題

全 50 問

試験時間 40 分

注意事項

※監督者の指示があるまで、この問題を開いてはいけません。

※問題冊子の持ち帰りはできません。

問 1 農業とその役割についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ①農業の基本的な役割は、私たちのいのちを支える食料生産である。
 - ②植物の化石をもとに作り出された化石燃料は、農業の生産物である。
 - ③家畜を飼養する生産業は農業の一つで、家畜の排せつ物を利用してエネルギーまで生産している。
-

問 2 農業・農村のもつ多面的機能についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ①食農体験活動は農業・農村の多面的機能のひとつである。
 - ②環境保全への貢献機能の一つに、水田に雨水をためることで洪水や土砂崩れなどを防ぐ機能がある。
 - ③水田は雨水をためるので、水の中で生活する生物だけが育ち、その他の生物は育たない。
 - ④農村風景は心をなごませ、癒し(いやし)の空間として保健・休養の場となっている。
-

問 3 農業就業人口(のうぎょうしゅうぎょうじんこう)についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ①農業就業人口とは、農業のみに従事しているか、兼業よりも農業での労働日数が多い人の数をいう。
 - ②2016(平成28)年の農業就業人口は200万人を下回った。
 - ③2016(平成28)年の農業就業者のうち65歳以上は全体の60%を切り、高齢化に歯止めがかかった。
-

問 4 農産物直売所についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ①農産物直売所は、市場集荷だけだった流通の仕組みを変え、地産地消の多品目販売の場となっている。
 - ②少量でも出荷することができ、農家が自分で値段を決められる直売所が多い。
 - ③2014(平成26)年の農水省の調査では全国の年間売り上げ額は5,000億円であった。
 - ④直売所の店頭で消費者の反応が直接聞けるので、農家のやりがいにつながっている。
-

問 5 日本の食料自給率(カロリーベース)についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ①1人1日当たりに供給される食べ物全体の熱量(カロリー)のうち、国産の食べ物から供給される熱量が何%になっているかを示している。
 - ②2015年度の日本の食料自給率は39%で、主要先進国のなかで最低のレベルであった。
 - ③主食のごはん(米)の自給率は100%だが、味噌汁や豆腐料理の原料である大豆の自給率は30%にすぎない。
-

問 6 耕作放棄地(こうさくほうきち)についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ①耕作放棄地とは、過去2年以上にわたって作物栽培がされず、今後も農家が耕作に使う意思のない土地のことである。
 - ②1980年頃より、耕作放棄地の面積は増え続け、2015(平成27)年の総面積は42万haを超えた。
 - ③耕作放棄地を解消するために、農水省は都道府県に「農地集積(のうちしゅうせき)バンク」を設置し、安心して農地の貸し借りができる制度を設けた。
-

問 7 野生鳥獣による農作物被害についての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ①農地の鳥獣害は中山間地域の耕作放棄地に原因があると考えられている。
 - ②被害は年々増加しており、被害額も年間300億円を超えるようになってきている。
 - ③獣害の被害額で最も多いのはイノシシで、次いでサルによる被害が多い。
-

問 8 地球温暖化についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ①大気中に増えた温室効果ガスが、地表から放射された赤外線を吸収し、また地表に戻すため地球が温暖化する。
 - ②地球温暖化の原因の6割以上は全世界の家畜が排出するメタンガスで、温室効果ガスといわれている。
 - ③地球温暖化とは、地球規模で気温や海水温が長期間に渡って上昇する現象である。
 - ④アメリカの研究グループは、1992(平成4)年から2015(平成27)年までの間に世界の海面水位が平均で約8cm上昇したと発表した。
-

問 9 温暖化による日本農業への影響についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ①イネのいもち病は25℃以上の高温になると発生が多くなるので、温暖化によって西日本での発生が多くなっている。
 - ②高温が原因で米が白乳化(はくにゅうか)し、収穫量が低下する現象が西日本で増えている。
 - ③地球温暖化が進むことで、その地域にはいなかった病害虫が生息域を広げることが予想されている。
 - ④イネでは、高温でも収穫量が多い高温耐性品種(こうおんたいせいひんしゅ)の導入が進められている。
-

問 10 生物多様性についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ①自然環境のなかで、いろいろな動植物が関わり合って生きている状態を生態系の多様性という。
 - ②同じ種類の動植物でも、個体ごとに形や性質が異なっている状態を遺伝子の多様性という。
 - ③生物多様性は4つの階層(レベル)に分けて考えられており、この4つが維持されることで自然環境は守られている。
 - ④いろいろな種類の動植物が数多くいる状態を種の多様性という。
-

問 1 1 エネルギーの地域内自給についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ①発電用の燃料を市町村で輸入し、市町村が運営する小規模の発電所で、地域で使う電力をまかなう方法。
 - ②廃材やゴミ等から取り出したメタンガスを使って発電する方法。
 - ③農業用水や小川を利用し、小型発電機で発電する方法。
-

問 1 2 地産地消(ちさんちしょう)についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ①地方で生産された農作物を都市で消費するという考え方を地産地消という。
 - ②食料の地産地消はフード・マイレージを小さくし、環境を守ることに繋がっている。
 - ③消費者の安全・安心志向とともに地産地消が広がりを見せている。
-

問 1 3 6つの基礎食品群についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ①2群には骨や歯を作り体の各機能を調整する無機質を含む食品が入っている。
 - ②3群には、皮膚や粘膜を保護する働きのあるカロテンを多く含む野菜類が入っている。
 - ③5群には、体の機能を調整するビタミンCを多く含む野菜や果物が入っている。
-

問 1 4 五大栄養素の働きについての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ①炭水化物の糖質と食物繊維は、体を動かすエネルギー源となる。
 - ②たんぱく質は筋肉や臓器、血液などの構成成分である。
 - ③脂質は1gで4kcalと効率のよいエネルギー源である。
 - ④ビタミンはエネルギー源として働く。
-

問 1 5 基礎代謝量(きそたいしゃりょう)と肥満についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ①基礎代謝量とは、安静な状態で生命維持に使われる必要最小限のエネルギー代謝量のことをいう。
 - ②食べ物からとる「摂取エネルギー」が、「消費エネルギー」よりも多くなると、脂肪となって体内に蓄えられ肥満の原因となる。
 - ③基礎代謝量は年齢と共に増加する。
 - ④運動不足は、筋肉量が減り、基礎代謝量が低下するので、エネルギーを燃やしにくい体になる。
-

問 1 6 生鮮食品の表示についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ①魚は国産の場合は「国産」の後に「水揚げした市町村名」を表示し、輸入品の場合は「原産国名」が表示される。
 - ②魚は、養殖したものは「養殖」、冷凍品を解凍したものには「解凍」と表示される。
 - ③肉は、名称とともに国産品には「国産」、輸入品には「原産国名」が表示される。
 - ④野菜・果物には、名称と原産地が表示されている。
-

問 1 7 消費期限と賞味期限についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ①消費期限はおいしく食べられる期限のことである。
 - ②消費期限は、安全に食べられる期限のことである。
 - ③賞味期限を過ぎても、すぐに食べられないということではない。
-

問 1 8 JAS マークについての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ①厚生労働省に安全規格に適合していると判定された飲食物品につけるマーク。
 - ②農林水産省に品位・成分・性能などが規格に適合していると判定された飲食物品と林産物につけるマーク。
 - ③消費者庁に消費安全規格に適合していると判定された飲食物品につけるマーク。
-

問 1 9 食中毒予防の3原則として、すべて正しいものは次のうちどれですか。

- ①細菌を見逃さない、殺す、増やさない。
 - ②細菌を見逃さない、つけない、殺す。
 - ③細菌をつけない、増やさない、殺す。
 - ④細菌をつけない、見逃さない、増やさない。
-

問 2 0 食品のトレーサビリティについての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ①英語の trace(追跡)と ability(…できること)とを組み合わせた言葉で「生産履歴追跡」と訳されている。
 - ②食品事故などの問題があったときに、食品がどの工場の、どの工程で損なわれたかを調査・追跡する担当部署のことである。
 - ③商品の生産・加工・流通の段階を通じて記録を作成し保存管理することにより食品の移動を把握できる仕組みである。
-

問 2 1 種子の発芽の3要素として、すべて正しいものは次のうちどれですか。

- ①水－空気(酸素)－光(日当たり)
 - ②水－温度(適温)－肥料(養分)
 - ③水－温度(適温)－空気(酸素)
-

問 2 2 野菜の種子の発芽適温についての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ①キュウリの発芽適温は、10～15℃である。
 - ②トウモロコシの発芽適温は15～20℃である。
 - ③コマツナの発芽適温は10～15℃である。
 - ④ダイコンの発芽適温は15～30℃である。
-

問 2 3 種子に光が当たったほうが発芽しやすい野菜は次のうちどれですか。

- ①レタス
 - ②カボチャ
 - ③トマト
 - ④ネギ
-

問 2 4 野菜を日照(日当たり)への好みで分けたとき、正しい組み合わせになるのは次のうちどれですか。

- ①シュンギク＝陽生植物(ようせいしょくぶつ)
 - ②ミツバ＝陰生植物(いんせいしょくぶつ)
 - ③ナス＝半陰生植物(はんいんせいしょくぶつ)
-

問 2 5 光合成についての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ①植物の体内でデンプンやタンパク質をつくりだす働きのことである。
 - ②光合成を行うには、光・水・酸素が必要である。
 - ③作物の収量や品質は、光合成のはたらきに大きく影響される。
-

問 2 6 気孔(きこう)とその働きについての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ①気孔は主に葉の裏面にある小さな組織で、一對の孔辺細胞(こうへんさいぼう)でできている。
 - ②光合成を行なうときの酸素の取り入れと二酸化炭素の放出口になっている。
 - ③呼吸作用を行なうときの二酸化炭素の取り入れと酸素の放出口になっている。
 - ④蒸散作用を行なうときの水分の取り入れと放出口になっている。
-

問 2 7 肥料の3要素の働きについての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ①窒素は、葉や茎の生育を促進し、葉色を濃くする。
 - ②リン酸は、根や茎を強くし、植物に耐寒性・耐病性をつける。
 - ③カリウムは、開花や結実を良くし、新根の発生にも働いている。
-

問 2 8 有機質肥料についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ①有機質肥料とは、植物や動物由来の有機質からつくられる肥料である。
 - ②油かすは、窒素主体の速効性肥料である。
 - ③骨粉は、リン酸が豊富で、米ぬかとともに緩効性(かんこうせい)のリン酸肥料である。
 - ④草木灰(そうもくばい)は、代表的なカリ肥料である。
-

問 2 9 作物栽培にかかわる土壌酸度(どじょうさんど)(pH)についての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ①多くの作物の生育に適した土壌の pH は、弱アルカリ性といわれている。
 - ②ホウレンソウは pH 値の低い土壌を好む。
 - ③土壌の pH 値が低い場合は石灰をまいて酸度を調整する。
 - ④サツマイモは pH 値の高い土壌でよく育つ。
-

問 3 0 野菜の病気の予防対策についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ①根を酸欠にしないため、水はけをよくする。
 - ②日当たり、風通しをよくするため、密植にしない。
 - ③生育を早めるために窒素を多く施す。
 - ④肥料切れで体力を低下させない。
-

問 3 1 野菜の害虫についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ①ヨトウムシは、葉を食害する代表的な強害虫である。
 - ②ウリハムシは、主にトマトやナスに被害を与える吸汁性(きゅうじゅうせい)の害虫である。
 - ③アブラムシは、吸汁性の害虫で、植物に寄生するウイルスの媒介もする。
 - ④ナナホシテントウは、野菜の害虫ではなくアブラムシの天敵である。
-

問 3 2 プランター栽培についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ①用土に赤玉土を混ぜると、水もち、水はけ、肥料もちを良くする効果がある。
 - ②用土に腐葉土を混ぜると土の微生物を増やし、土質を良くする。
 - ③果菜類を育てるためには、深型プランターで容量30L以上の物が適している。
 - ④肥料は、基肥(元肥)(もとごえ)として速効性の肥料を株元に施すのが良い。
-

問 3 3 野菜の原産地と栽培の好適環境についての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ①ナスはアフリカ原産で、高温を好む。
 - ②キュウリはインド付近のヒマラヤ山麓が原産とされ、夏でも比較的涼しい気候を好む。
 - ③トマトは北アメリカ原産で、強い光を好む。
 - ④ミョウガは日本原産で、十分な日当たりを必要とする。
-

問 3 4 野菜の病気についての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ①うどんこ病は、梅雨時の多湿な環境のときに発生しやすい。
 - ②灰色カビ病は、梅雨明け後などの高温・乾燥時に発生しやすい。
 - ③腐敗(ふはい)(軟腐)(なんぷ)病は、病原菌が空気伝染して被害が拡大する。
 - ④モザイク病は、ウイルス感染による病気で、アブラムシによって広がる。
-

問 3 5 カブの栽培についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ①プランターに種まきした後は、害虫の被害を防ぐためにビニールフィルムですき間なく覆っておく。
 - ②1回目の間引きは、子葉がきれいなハート型の株を残しながら、株間が2.5cm程度になるように間引きする。
 - ③土壌は選ばないが、乾燥に弱いので、灌水(かんすい)はこまめに行う。
-

問 3 6 カブの生育環境と品質についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ①土の急激な乾燥は裂根(れっこん)の原因の一つである。
 - ②砂が多めの土ではカブの肌がきれいになる。
 - ③日照が多いと生育が悪くなる。
-

問 3 7 コマツナの基本的特性についての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ①高温に強く低温に弱い。
 - ②水分を好み、十分な水がないと育ちが悪くなる。
 - ③酸性土壌に弱く、連作障害も起きやすい。
-

問 3 8 コマツナの栽培についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ①間引きするときは、他の苗を傷めないようにハサミを使うとよい。
 - ②根は深く張らないので、標準プランターで栽培できる。
 - ③夏まきの場合は、播種後2週間で収穫できる。
-

問 3 9 シソの栽培についての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ①草丈15～20cmの頃に先端の芽を摘み取ると、わき芽が増えて葉の数が増える。
 - ②シソの種子は光が当たると発芽しにくいので、種まきの後の覆土はしっかりとかぶせる。
 - ③乾燥した土を好むので、灌水を控えめに育てるとよい。
-

問 4 0 シソの種類と利用法についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ①葉が緑色の青ジソは、薬味として利用されたり、天ぷらなどに利用される。
 - ②青ジソの葉は「大葉」とも呼ばれて、周年で流通している。
 - ③赤ジソはアクがないので、主に生食で利用されるほか、梅干しの色付けなどの加工品にも使われている。
 - ④花穂ジソは、花軸のつぼみが30～50%開花したところで収穫し、刺身のつまや天ぷらに使われる。
-

問 4 1 シソ科の野菜についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ①シソ科にはミント、ローズマリーなど料理の香り付けとして使われるハーブが多く含まれている。
 - ②日本で多く利用されているシソの原産地はヒマラヤ・中国中南部である。
 - ③バジルは生葉、乾燥葉、花穂など多くの部位が食用に使われている。
 - ④エゴマは、葉から抽出した油が食用油として利用されている。
-

問 4 2 レタスの栽培についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ①ブランター栽培では葉レタスやサラダ菜が育てやすい。
 - ②レタスは低温に反応して花芽分化し、とう立ち(抽だい)する。
 - ③好光性種子(こうこうせいしゅし)なので、種まき後の覆土は薄くする。
 - ④葉レタスは、外側の葉から1枚ずつかき取っていくと、長く収穫できる。
-

問 4 3 イチゴの苗についての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ①イチゴはランナーと呼ばれる特殊な根を伸ばして子株を増やすことができる。
 - ②苗を増やす場合は、収穫を終えた後に、親株から伸びたランナーについている子株を鉢に受けて育てる。
 - ③苗の植え付けは花芽分化が始まる時期までに終える。
-

問 4 4 イチゴの栽培についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ①「とちおとめ」など現在栽培されている多くの品種は一季成りイチゴである。
 - ②一季成りイチゴは、高温・長日で花芽分化する。
 - ③有機質に富んだ保水性、排水性のある土を好む。
-

問 4 5 エダマメの基本的特性についての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ①暑さにも寒さにも強い。
 - ②強い日射に弱く、半日陰の方が生育が良い。
 - ③過湿には弱い、開花結実期には水分を多く必要とする。
-

問 4 6 エダマメの栽培についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ①本葉が増えて背丈が高くなってくると風で倒れやすくなるので、根元に「増し土」をして倒伏を防ぐ。
 - ②増し土をすると、茎の根元から新しい根が出て養分や水分を吸収するので、成長が良くなる。
 - ③収穫量を増やすために側枝を多く出させる作業を摘芽という。
 - ④エダマメの施肥は、窒素が過剰にならないよう控えめにする。
-

問 4 7 スプラウトについての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ①スプラウトとは、植物の新芽のことで、発芽野菜とも呼ばれている。
 - ②カイワレダイコンはダイコンの種子を発芽させたスプラウトである。
 - ③ブロッコリー、ムラサキキャベツ、ソバなどもスプラウトとして栽培できる。
 - ④スプラウトとして栽培するための種は市販されている種子のなかで殺菌処理をした種子を使う。
-

問 4 8 エダマメと根粒菌についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ①エダマメの根についている小さなこぶは、根粒と呼ばれ、中に根粒菌が住み着いている。
 - ②根粒菌は、空気中の窒素を取り入れて、エダマメに供給している。
 - ③エダマメは、光合成でつくった炭水化物を根粒菌に供給している。
 - ④根粒菌の活動には、二酸化炭素が必要である。
-

問 4 9 イチゴについての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ①春から秋にかけて実がなる種類を四季なりイチゴという。
 - ②イチゴの果実は雌しべの下にある花床が肥大したものである。
 - ③定植するときは、苗がぐらつかないように、苗の中央にあるクラウンが見えなくなるまで土をしっかりとかける。
-

問 5 0 コマツナの栽培についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ①生育の初期段階から致命的な被害を与える害虫に、ナノアオムシやコナガがいる。
 - ②害虫を防除するためには、防虫ネットや不織布をトンネル掛けにして、すき間から虫が入らないように、すそをしっかりと固定しておく。
 - ③冬期の防寒には、ビニールなどをトンネル掛けにし、すき間風が入らないように、すそをしっかりと固定しておく。
 - ④本葉 1 ～ 2 枚の頃、苗の間隔が 3 ～ 4 c m になるように 1 回目の間引きを行う。
-

日本農業検定

